

| 学校教育目標 | | グローバルな視野を持ち、未来の創り手となる子どもの育成 | | 重点目標 | 基礎学力を身に付けた子どもの育成 | | | | | |
|------------|---|--|----|---|--|---------|--|--|--|--|
| 評価計画 | | | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善計画 | | |
| 重点目標 | 目標達成のための方策(取組指標) | 成果指標 | 評価 | 結果(成果○と課題△) | | 評価 | コメント | 次年度における改善策(案) | | |
| | | | | ① 確かな学力づくり | <ul style="list-style-type: none"> 学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○各自の目標を明確にしたスキルアップタイム(読み、書き、計算)の時間を設定し、結果を可視化する。 ○根拠を基に考えを書く、話す活動を位置付ける。 ○「めあて、まとめ、振り返り」を位置付けた授業づくりをする。 家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習のすすめを活用して、家庭学習強調週間を年間5回実施する。 読書習慣の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○読書タイム、ボランティアによる読み聞かせや家読の日を通して、読書意欲を高め、習慣化を図る。 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ○パワーアップカード「読み、書き、計算」学級平均8以上(4段階評価) ○パワーアップカード「根拠をもとに話したり書いたりできる」学級平均8以上(4段階評価) ○教育課程評価の「授業づくり」の項目3.0以上(4段階評価) ○家庭学習記録ノート「○」の数を平均5以上 ○図書の出し出し冊数 <ul style="list-style-type: none"> ・低120冊以上 ・中90冊以上 ・高70冊以上 | 3 |
| ② 豊かな心づくり | <ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心の育成 <ul style="list-style-type: none"> ○清掃活動を徹底させ、美しい環境づくりをする。 ○「ぼかぼか」ポストを活用し、全校でよいところ見つけを行い、給食の時間に放送する。 規範意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○中友小4ルール(挨拶、言葉遣い、廊下歩行、時間を守る)を徹底する。 ESDの充実 <ul style="list-style-type: none"> ○ユネスコスクールとして、地域に根ざした福祉教育、地域学習、海洋教育を中心にESDを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○教育課程評価の「清掃活動」の項目3.0以上(4段階評価) ○教育課程評価の「ぼかぼか」ポストの項目3.0以上(4段階評価) ○パワーアップカード「中友4ルール」学級平均8点以上(4段階評価) | 3 | △清掃の範囲が広く、指導が不十分な箇所があった。 | △「近接学年の友だち」「同じ階の友だち」のように相手を限定して取り組むなど工夫が必要である。 | 3 | ○全職員で重点的に指導するルールを共通理解したうえで指導にあたったことで、成果が表れた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の評価は適切である。 ・とてもよい取組だと思う。続けてほしい。 ・子供に「綺麗になると気持ちいい」と実感させるような取組を工夫する。 ・綺麗な教室や学校で生活すると気持ちがよいことを理解させ、美しい環境で活動できることの喜びを感じるようお願いしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・掃除の時間は、目標と役割分担を明確にさせ、児童及び職員全員で清掃し、振り返り活動を行う。 ・「ぼかぼか」ポストに定期的に取り組む時間を設定する。 |
| ③ 健やかな体づくり | <ul style="list-style-type: none"> 運動能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○体育科の学習で十分に体を動かせる運動量を確保する。 体力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題に向かって見通しをもち、活動できるようにする。 ○体力アップシートを活用し、体力を向上させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童の1単位時間の活動量60%(27分)以上の確保 ○パワーアップカード「体力づくり」学級平均8以上(4段階評価) ○外遊びをする児童75%以上 | 4 | ○体育の学習では、主運動を中心に十分に活動することができた。 | ○体力を向上させるという目的意識をもって運動に取り組む児童が増えた。 | 3 | ○週一回、学級外遊びの日を位置付けたことで外で遊ぶ児童が増えた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の評価は適切である。 ・定着していて、良好である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育の学習における活動量60%を目標を継続する。 |
| いじ防止 | <ul style="list-style-type: none"> 早期発見・早期解消 <ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間や人権教育の充実を図るとともに、学級経営において、共感的な人間関係づくりを行う。 ○いじめチェックリストやアンケートを実施し、変化やトラブルに基づく教育相談を行うなど、組織的に対応する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活アンケート「教師との関係」学級平均1.0以上(上限値2.0 下限値-2.0) ○生活アンケート「友達との関係」学級平均1.0以上(上限値2.0 下限値-2.0) | 3 | ○担任との関係はおおむね良好である。学級経営力を向上させ、共感的な関係づくりを進めていく。 | ○支援が必要な児童について情報共有を行い、組織的な早期発見・早期対応ができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の評価は適切である。 ・教師と子供が遊ぶことが一番。下級生は学校生活に不安があったと思う。 ・学校生活において先生との距離感は子ども達にとって大事と思う。今後も良好な関係を続けてほしい。 ・高学年になるとSNSトラブル等も懸念される。先生とのコミュニケーションは大切。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で学級経営に関する内容を実施したり、学級づくりについて情報交換したりする。 | | |
| 不登校防止 | <ul style="list-style-type: none"> 不登校児童の解消と不登校傾向の児童数の減少 <ul style="list-style-type: none"> ○福岡アクション3を実行し、児童のわずかな変化を捉え、関係機関と連携し、組織で対応する。 ○生徒指導の3つの機能を取り入れ、児童の自尊感情を育む学級経営を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活アンケート「登校意欲」学級平均1.0以上(上限値2.0 下限値-2.0) ○生活アンケート「自己概念」学級平均1.0以上(上限値2.0 下限値-2.0) | 3 | ○欠席した児童には、福岡アクション3に基づき、確実に対応した。 | △やり遂げたときの達成感を味わわせるための工夫が不十分だった。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の評価は適切である。 ・実行が成果として出ていると思う。 ・教師が取り組んでいるのに児童の意欲が上がらない要因は何かを考える必要がある。 ・学校と家庭、地域の方々との情報共有は大切。今後も続けてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・福岡アクション3に基づく指導を継続する。 ・SSWやSCを中心に関係機関との連携を図る。 | | |
| 働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の意識改革と業務改善の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○学校閉庁時刻(20時)での退校及び定時退校日を設定する。 ○業務改善委員会を実施し、超過勤務状況の把握と業務の効率化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○教育課程評価の「タイムマネジメント力」の項目2.5以上(4段階評価) ○教育課程評価の「働きやすい職場」の項目2.5以上(4段階評価) | 3 | ○20時までの退校はほぼ達成できた。△定時退校はなかなか難しい。 | △定期的な業務改善委員会を実施し、確実な行事調整を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の評価は適切である。 ・職員の意識向上で成果は上がると思う。時刻ではなく働き甲斐に目を向けるといい。 ・水曜日を定時退校日としている点は評価できる。 ・児童に対する教職員の凜とした姿を、更に強調すべきである。 ・引き続き業務改善を推進してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月スケジュールを継続し、業務の見直しをもてるようにする。 ・担任のタイムマネジメント力を高め、業務の効率化について協議していく。 | | |

◇ 評価について

- ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
- ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである

令和4年度 学校評価計画書

| 評価計画 | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 改善計画 | | | |
|--------------|--------------------------|--|---|---|---|--|---|---|---|
| 領域 | 評価の観点 | 評価指標 (①取組指標または②成果指標) | 評価 | 結果 (成果○と課題△) | 評価 | コメント | 次年度における改善策 (案) | | |
| 総合的評価 | 教育課程 学習指導 | ■年間指導計画の作成と実施及び評価 | ① <input type="checkbox"/> 週指導計画案による量的管理および、教室訪問・各種学力調査等結果の評価による質的管理ができています。 | 3 | △ 週案の提出による量的管理はできたが、質的管理の点で課題がある。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 質的管理については、日頃から職員との対話が必要である。 年間計画は重点化し、「中友では、ここが弱いから時数を上乘せする」「小中一貫教育として3校共同でここを取り組む」などその都度職員間で確認し合うことで確実な実施が見込まれる。 学力向上のためには個に応じた指導が大切なので、継続してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果をもとにしたカリキュラムの重点化や市販テストの結果による復習の時間の設定など、学年の実態に応じた取組の工夫が見える週計画案の作成を行う。 指導方法工夫改善教員や非常勤講師等を活用した計画的な少人数指導を実施する。 | |
| | | ■効果的な指導方法の工夫 | ① <input type="checkbox"/> 少人数学級編成推進事業、学力アップ、アフタースクール等、非常勤講師を活用した少人数学習を行っている。 | 4 | ○ 指導方法工夫改善教員、非常勤講師を活用し、4年生の算数科を中心に個に応じた指導ができた。 | A | | | |
| | 進路指導 | ■「生き方」指導としてのキャリア教育の推進 | ① <input type="checkbox"/> 中学卒業時、高等学校卒業時までを見通した基礎的・基本的事項の定着を図っている。 | 3 | ○ キャリアパスポートに関する時間を設定し、自己の目標の振り返りや新たな目標の設定をすることができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 キャリア教育の引継ぎを確実にする。 子どもの意識の高まりが見えると良いと思う。 先を見通した活動ができています。今年まで小中や小小と一緒に取り組むことが難しかったが、来年度は積極的に実施できると思う。 集団の中で自分が役立つという喜びは、誇りと自信につながる。 労働・勤労を苦にしたり、面倒に感じたりしない指導をお願いしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事等の実施前の目標設定、実施後の振り返りの時間の設定を全学年実施する。 係活動や当番活動、委員会活動等の日々の活動において「鍛ほめ福岡メソッド」に基づく指導を行い、児童に充実感や達成感を味わわせていく。 | |
| | | | ■望ましい労働観、勤労観の育成(ボランティア意識の高揚) | ① <input type="checkbox"/> 委員会活動や各行事の係活動などの体験活動を行い、自己理解を深めたり、コミュニケーション能力の伸長を図ったりしている。 | 3 | ○ 委員会や係、当番を通して役割を自覚し、進んで活動する意識が高まるように努めた。 | | | A |
| | 生徒指導 | ■問題行動への組織的対応 | ① <input type="checkbox"/> 生徒指導担当者を中心とした、迅速的確な対応と職員全体での情報共有を行っている。 | 3 | ○ 職員を活用し、配慮や支援を要する児童の共通理解や情報共有を行うことができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 生徒指導は、情報共有後の素早い的確な対応が大切である。 組織的によく対応している。 関係機関との連携もできている。 職員研修は継続が大切なので、計画的に実施する。 職員の共通理解や情報共有によって、子どもの問題行動を未然に防ぐことができると思う。今後も続けてほしい。 自己概念を豊かにするには、新しい経験を積むことが大事だと思う。行事等を通して、引き続き自己概念が育つ配慮をお願いしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会を中心に、支援や配慮を要する児童について情報を共有し、関係機関とも連携して組織的に対応する。 スクールカウンセラーを活用した生徒指導研修会を計画的に実施し、教師の生徒指導力の向上をめざす。 各種アンケート後の教育相談や日々の観察をきめ細かにし、問題行動の早期発見・早期対応に努める。 | |
| | | | ■積極的な生徒指導の充実 | ① <input type="checkbox"/> 生徒指導の機能を活かした各種行事の企画・運営を行っている。 | 3 | ○ 行事を通して、達成感や満足感を味わえるよう常に配慮している。 | | | A |
| | | | ■教育相談の充実 | ① <input type="checkbox"/> 定期的な教育相談の実施とスクールカウンセラーを活用した教育相談や研修を行っている。 | 4 | ○ スクールカウンセラーによる研修会を2回実施し、学級経営についての研修を深めることができた。 | | | A |
| | 保健管理 | ■健康指導の充実 | ① <input type="checkbox"/> 健康指導・性教育を充実させ、薬物乱用防止教室を実施している。 | 4 | ○ 養護教諭による健康指導や学校医による薬物乱用防止教室を実施することができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 実施後の子どもの姿が大切である。 担当者や担任の連携を確実に実施してほしい。 アレルギー食については、間違いがあってはならないので、今後もしっかり確認していく(ダブルチェックやトリプルチェック体制)。 | <ul style="list-style-type: none"> P T Aと連携して「早寝・早起き・朝ご飯」を実践し、児童の健康安全や生活習慣の改善に努める。 年度当初、全職員で、危機管理マニュアルに基づいた食物アレルギーへの対策について確実に共通理解する。 | |
| | | | ■学校給食の管理と食育の推進 | ① <input type="checkbox"/> 委員会活動を通じ、日常的に食育を推進するとともに、職員研修や情報共有などのアレルギー対策を実施している。 | 3 | ○ 毎月のアレルギー会議で、学級担任とアレルギーの把握や確認ができた。 | | | A |
| | 安全管理 | ■登・下校時の安全対策 | ① <input type="checkbox"/> 管理職による通学路点検を実施するとともに、見守り隊との密な連携を図っている。 | 4 | ○ 見守り隊の方の協力により、通学路の点検や登下校中の児童の様子が把握できた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 見守り隊の方々が大変協力的である。学校と連絡取り合うことで、危険を未然に防いでいる。 安全点検は、確実に実施されている。 学校側の努力を感じる。 今後も丁寧な安全点検、迅速な整備を続けてほしい。 水害時の引き渡し訓練ができたことは素晴らしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検を確実に実施する。また、修繕等が必要な場合は迅速に整備を行う。 P T A、見守り隊と連携協力し、児童の安全な登下校が行えるように努める。 避難訓練、水害時の引き渡し訓練は、早い段階で行い、改善していく。 | |
| | | | ■施設・設備の安全点検の実施 | ① <input type="checkbox"/> 管理職による毎日の校内施設・設備安全点検を実施するとともに、職員による毎月の安全点検を実施している。 | 4 | ○ 安全点検により、迅速に危険箇所の整備や修理ができた。 | | | A |
| | | | ■安全指導の徹底 | ① <input type="checkbox"/> 年2回の避難訓練(地震・火災を想定)と交通教室を実施するとともに、日常的に指導を行っている。 | 4 | ○ 避難訓練、交通教室ともに実施できた。水害時の引き渡し訓練も実施できた。 | | | A |
| 特別支援教育 | ■特別な支援を要する子のニーズに合った指導の充実 | ① <input type="checkbox"/> 保護者の要望をもとに、特別支援教育支援員の要請・配置を行っている。 | 4 | ○ 特別支援教育支援員の2名の配置により、個に応じた支援を行うことができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 授業を参観させていただいて、特別支援教育支援員が効果的に配置され、個に応じた指導が行われていた。 支援員、関係機関とよく連携がとれている。 年度初めより、終わりの方が学校が落ち着いていると感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> 年度当初、管理職・学級担任・特別支援教育支援員で年間の支援計画について考えていく。 支援を要する児童に対しては、保護者、関係機関と連携し、児童の教育的なニーズに応じた学校生活が送れるようにする。 | | |
| | | ■指導体制の整備 | ① <input type="checkbox"/> 大牟田特別支援学校や児童家庭課・児童相談所との連絡・情報交換など関係機関との連携を図っている。 | 4 | ○ 児童の様子や家庭からの支援の要望をもとに、各関係機関との連携を積極的に図っている。 | | | A | |
| 組織運営 | ■学年・学級経営の充実 | ① <input type="checkbox"/> 学校の重点目標達成へ向けた学年・学級経営案の作成と実践・評価・改善を行っている。 | 3 | ○ 学級経営案の項目に重点目標を位置付け、重点目標達成へ向けた実践に取り組んだ。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 業務改善は、組織的に見える形で実施してほしい。 職員が少ないので、一人あたりの校務分掌も多いと思う。「担当者」から「担当チーム」にし、複数で一緒に取り組むことで効率的なことがあると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 近接学年会や水曜日の午後の時間を計画的、有効的に活用した校務運営を行う。 重点目標達成に向けて各種組織を再編成し、担当チームで業務を行っていくようにする。 | | |
| | | ■校務分掌の機能状況 | ① <input type="checkbox"/> 各校務分掌が組織的に機能し、業務が適切に行われている。 | 3 | △ 業務を効率的に行うために、各種組織を再編する必要がある。 | | | A | |
| 研修 | ■校内研修の充実 | ① <input type="checkbox"/> 全員が年1回以上、校内研究授業を行っている。 | 4 | ○ 全員が公開授業を行い、協議を通して、授業改善への共通理解ができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 校内研修は、計画的・組織的に行われ、充実していると思う。 人材育成への取組がともよい。 校内研究授業の実施は大変と思うが、子ども達が勉強に対し、興味や関心をもち、学習意欲が高まるよう、今後も続けてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 国語科を主題研修として進め、教師の指導力の向上を図るとともに、児童に力をつける校内研修を行っている。 週に1回、重点授業の時間を設定し、研究の日常化に向けた取組を進めていく。 職員のキャリアステージに応じた研修への参加を更に促し、支援体制を整えていく。 | | |
| | | ① <input type="checkbox"/> 講師を招聘した授業改善へ向けて研修会を実施している。 | 4 | ○ 算数科、国語科の研究授業において講師を招聘し、授業改善の指導助言を受けた。 | A | | | | |
| | | ■キャリアステージに応じた職能研修の充実 | ① <input type="checkbox"/> 各種研修会への積極的な参加、市・県等教育論文応募の呼びかけや支援を行っている。 | 4 | ○ キャリアステージに応じた研修への積極的な参加を促し、参加に伴う支援体制を整えた。 | | | A | |
| 教育目標 学校評価 | ■教育目標、各教育活動における達成状況 | ① <input type="checkbox"/> 重点目標達成委員会を設置し、目標達成に向けた実践・評価・改善を計画的に実施している。 | 3 | △ 重点目標達成委員会の運営方法について、再度検討が必要である。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 実施、評価したものを確実に改善できるよう次年度に活かしてほしい。 若手からベテランまで誰もが取り組みやすい共通実践事項を設定すると、結果が検証しやすいと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 重点目標達成委員会の役割を明確にし、全教職員でアイデアを出し合う協働的な組織にしていく。 「授業づくり」「生活づくり」の2つの部会を中心に重点目標達成に努めていく。 | | |
| | | ■学校評価の実施と改善の状況 | ① <input type="checkbox"/> 各種アンケート結果を基に客観的な学校評価を実施し、その結果を分析して改善に取り組んでいる。 | 4 | ○ 各種アンケートをもとに、客観的な学校評価を行うことができた。 | | | A | |
| 情報提供 | ■各種通信・HP等による、積極的な情報の発信 | ① <input type="checkbox"/> 学級・学年・学校通信の定期的な発行や、Mボードを用いた積極的な情報発信を行っている。 | 4 | ○ 学校の行事や学級の学習の様子などMボードを用いて積極的に発信することができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 コロナ禍で子どもの活動が見えにくいので、継続して保護者、地域へ情報発信してほしい。子どもたちは精一杯頑張っているの、先生方に感謝している。 学校の情報をよく発信しているので、学校の様子が保護者・地域にとっても分かりやすい。 地域に対しても「学校だより」が回覧されている。 Mボードなどで学校の様子を知ることにより、安心するだけでなく、学校への理解にもつながる。今後も積極的な発信をお願いしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> Mボードを中心に、学校や学級の様子を保護者や地域へ発信する取組を継続し、開かれた学校づくりを推進する。 重点目標やめざす子どもの姿を校内に掲示し、児童、保護者、地域の方々への意識化を図り、理解を深めていく。 | | |
| | | ■各種会合等での情報共有・啓発 | ① <input type="checkbox"/> 学級・学年懇談会を実施するとともに、地域の各種会議・会合に参加し、情報提供や啓発を行っている。 | 4 | ○ 学級懇談会、個人懇談会を実施し、学級担任から保護者へ情報提供することができた。 | | | A | |
| 保護者・地域との連携 | ■保護者との連携 | ① <input type="checkbox"/> P T Aとの連携を強め、学校教育への理解が深まり、P T Aの積極的な協力があがる。 | 2 | △ 役員会、運営委員会の回数を増やし、連携を深めていく必要がある。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 コロナ禍ではあるが、限られた時間の中で連携はされていると思います。 役員会など会合を増やすと保護者の負担意識が増えるのでベースとなる企画(過年度分など)をうまく活用すとい。 保護者に対し、地域との関係を促してほしい。 コロナ禍での制約はあったと思うが、よく活動されたと思う。 中友小独自の活動は、これからは改善しながら続いてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> P T A運営委員会を中心に、学校と家庭が共通認識のもとに連携していく組織運営を行う。 社協、連協、民児協など地域の方々や協力し、中友ハッピーターウンプロジェクトを推進していく。 P T Aとの話し合いの場を密に行い、信頼関係の構築を図る。 | | |
| | | ■地域との連携 | ① <input type="checkbox"/> 社協・連協・民児協、地域の行事に関する実行委員会等に積極的に参加している。 | 4 | ○ 民生員活動や十日市の見学等で地域の方々やふれ合い機会が増えた。管理職を中心に、地域の会合に積極的に参加できた。 | | | A | |
| 教育環境整備 | ■学校施設の整備状況 | ① <input type="checkbox"/> 特色ある教育活動実施へ向けた、校内設備の整備を行っている。 | 4 | ○ 重点目標や読み聞かせ、ESDの掲示板等、特色を生かした環境整備を行っている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校の評価は適切である。 授業参観をとおして、校内の環境がよく整備されていると思う。 読み聞かせの本を掲示板で紹介したり、子供民生委員の活動に取り組んだり、取組が素晴らしい。 掲示することにより、子ども達も興味をもったり、意欲が出たりと思う。特色を生かした環境整備が素晴らしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 重点目標達成委員会で設定しためざす児童の頑張りやよさが見える校内環境づくりを行っている。 読み聞かせの掲示板やE S D掲示板の取組を継続し、本校の特色を生かした環境整備を行う。 | | |
| | | ■教育備品の整備状況 | ① <input type="checkbox"/> 計画的な配当予算の執行による、新規備品購入や修理・修繕を行っている。 | 4 | ○ 購入備品を精選し、学習の充実が図れるように努めた。 | | | A | |

◇ 評価について ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)
・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである